

実現に向けて始動

若者たちが帰ってくる人口減少対策

「瀬戸内クロスポイント構想」前進

人口減少や災害への備えなどの課題に直面し、大きな転機を迎えている今治市。令和7年度は「STAGE CHANGE（ステージチェンジ）」を合言葉に、若者が戻ってこれる環境づくりや地域経済の活性化、防災対策や子育て支援などに力を注いでいきます。これからのまちづくりについて、徳永市長にお話を伺いました。

市長

令和7年3月23日に発生しました林野火災。消防隊、消防団をはじめ、愛媛県、自衛隊、総務省消防庁、さらには周辺自治体や関係機関の

皆様のご尽力によって、4月14日に鎮火することができました。

平成以降、県内最大規模の林野火災となりましたが、人命を失う被害がなかったことは不幸中の幸いでした。一方で、大切なご自宅や財産に被害を受けられた方もいらっしゃると思います。あらためてお見舞いを申し上げます。

今後は、被災者の1日も早い生活再建を支援してまいりますとともに

「瀬戸内クロスポイント構想」とは、今治市が掲げる地域経済活性化の戦略。地域資源を最大限に活用し、所得の地域内循環を促進することに加え、「人口回帰」の考えを取り入れ「商い」と「人」の好循環を生み出すことを目的としている。



▲瀬戸内クロスポイント構想図

市長、令和7年度の施政方針の柱について教えてください。

市長

私の2期目のスローガンに掲げる「STAGE CHANGE」を具体

記者

人口減少対策として、どのような政策を講じるのでしょうか。

市長

今治市は「消滅可能性自治体」から脱却することができましたが、30年後の2055年の人口推計では10万人を割り込む数値も示されており、予断は許しません。人口減少の大きな要因の1つは、今治から巣立った若者たちが戻ってこないことです。

この課題を解決するには、今治出身の若者が再び故郷に戻り、安心して暮らし、働くことができる仕組み、つまりは「人口回帰」の流れを確立し、

化する1年になると考えています。人口減少への対応、地域経済の活性化、防災・減災体制の強化などに重点を置いて取り組めます。加えて、教育や子育て支援の充実もバランスよく進めていきます。



▲煙が立ち上る林野火災現場